SEEDS

建築・土木

鈴木（スズキ） 克彦（カツヒコ） 教授

工学部 建築デザイン学科

■ 研究業績等

【著書】

・著書 『すぐに役立つ「建築協定」の運営とまちづくり』鹿島出版会（単著）:1992/06

・著書 『マンション学事典』民事法研究会（共著）:2006/04

・教科書 『現代建築学［新訂］建築計画（1）（2）』鹿島出版会（共著）:2016

【論文】

・学術論文 「社会的責任ある持続可能なマンション管理とマンション学」マンション学 日本マンション学会（第71号）:6-9（単著）：2022/04

・学術論文 「A Study of the Importance of Personal Interests Concerning on Urban Planning：Case Studies in Kyoto City,Japan」Journal of Architectural/Planning Research and Studies(JARS) Vol.15(No.1):17-34（共著）:2018/10

・学術論文 「UR向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験における改修コンセプトと再生効果の検証」日本建築学会住宅系研究報告会論文集 日本建築学会（第6号）:213-222（共著）:2011/12

【学会発表】

・マンションを巡る環境問題（近畿弁護士会連合会夏期研修会）:2022/07/30

・Sustainable Housing in Stock-oriented Society（The First International Conference on Design,Innovation and Creativity）:2018/02/22

・社会的責任ある持続可能なマンション管理（日本マンション学会2021秋のシンポジウム）:2021/10/16

キーワード　地域資源　持続可能性　ストック活用　コミュニティ再生

対応可能なもの　■講演　■研修　■研究相談（学術指導）　■学術調査　■コメンテーター　■共同研究・受託研究

地域の資源（ストック）を活用して持続可能なコミュニティに再生します

研究の概要

人口減少と少子高齢化が進行し成熟社会を迎えた我が国では、高度成長期に大都市郊外に大量に建設された大規模団地やニュータウンが再生期を迎えています。また、管理不全となった空き家はますます増加し、地域のコミュニティが脆弱化しているのが現状です。都市住宅として定着した分譲マンションにおいても、建物の老朽化と居住者の高齢化にともない管理不全の兆候が見られるマンションが多くなりました。

永く住み続けられる持続可能なコミュニティを目指してまちを再生していくためには、地域の多様な資源を活かしつつ「暮らしの価値」を共有できるような仕組みづくりが何よりも大切となります。そのために、多様な人々のニーズや思い入れ、ライフスタイルや文化を包含（インクルード）する姿勢を大事にしながら、永年にわたる住環境の管理運営で養われた大切な価値を守り育て、良好な住環境と豊かなコミュニティを持続的に維持・創生していけるような住環境づくりを目指しています。

研究の詳細

□研究・技術のプロセス　■研究事例　■研究成果　□使用用途・応用例　□今後の展開

老朽化して空き家となった住宅のストックを学生が主体となって再生し、その利活用のあり様を提案するプロジェクトに取り組んでいます。具体的な取り組みとして、高経年のUR団地を住棟まるごと改修するプロジェクト（写真1：UR向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験）や洲本市との域学連携事業として、学生が主体となって築100年を超える古民家を再生するプロジェクト（写真2：地元の方と一緒に取り組んだ古民家再生）にもチャレンジしてきました。

一方で、持続可能なコミュニティ再生の課題にも取り組んでいます。マンションの管理不全化を防ぎ、永く住み続けられる住まいとするために、マンション管理の健全化に向けて学際的に取り組んでいます。また、郊外の住宅地に対しては、良好な住環境を地域コミュニティの力で維持していけるような仕組みづくりについて、地域住民の方々と共に取り組んでいます（写真3：建築協定地区の住民たちを交えたワークショップ）。

産学官連携先に向けたアピールポイント

・学生の独創的なアイデアを活かして地域のコミュニティを再生します。

ご連絡窓口　京都橘大学リエゾンオフィス（学術振興課）　TEL：075-574-4186　E-mail：aca-ext@tachibana-u.ac.jp